

校名：滋賀大学教育学部附属中学校

所在地：〒520-0817 滋賀県大津市昭和町10-3 電話番号：077-527-5255

記載日：平成28年 6月 1日

記載者： 都賀 正樹

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

滋賀大学教育学部附属学校園教育の基本理念『今を生きる』のもと、以下の学校目標並びに努力目標を掲げ、教育活動・教育実践を行っている。

●学校目標

郷土を愛し世界へはばたく心豊かな生徒の育成

- (1) 自他の人格を尊重し、連帯協力し合える人間に
- (2) 創造的な知性と正しい判断力をもつ人間に
- (3) 自然と文化を愛する心豊かな人間に
- (4) 苦難を克服し、自ら開拓しうるたくましい人間に
- (5) 国際的視野に立ち、国と郷土をきづく人間に



●努力目標

○思いやりや感謝の気持ちを育てる心の教育の充実

→生徒一人ひとりが学年・学級に所属感を持ち生き生きと活動できる学級づくりに努めます。

○生徒の自主的・自発的な生活・学習習慣を定着させるよう指導方法の工夫改善

→あいさつや言葉遣い、服装、清掃など基本的生活習慣の定着を図るよう指導に努めます。

○家庭や地域との連携や教育相談など生徒の実態把握に努め、いじめや不登校、問題行動の防止

→授業公開の日を充実させ、定期相談、チャンス相談等による早期対応に努めます。

○健康・安全への意識化と実践力を高める指導

→食育や健康の保持増進に関する指導方法の工夫改善に努めます。

○附属中の使命を自覚し常に学び続ける教職員集団として先見的な研究活動

→教員として専門性を高め、自らの能力開発に努める研究・研修活動に努めます。

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査は実施していない。

② 2年に1回、附属学校同窓会総会が開催されている。そこに副校長が参加し、各卒業年度の代表者と情報交換を行っている。

③ 具体的な氏名等は把握していないが産業・文化・芸術分野はもちろんのこと、医療・教育・公務員等において全国規模で活躍している

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査実施していない
- ② 特別な追跡調査は行っていないが、滋賀県の場合、ほぼ全県的な規模で研修や研究活動を行うことができるので、附属からの転出者の状況は把握することができている。
また、滋賀附属では、ほとんどの教科において、県の教科部会の事務局（事務局長）を担当しているため、教科のつながりは、転出後も常に密接なものがある。
- ③ 本校経験者が、県教育委員会や市町の教育委員会に、指導的な立場で活躍している者も多い

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 総合学習の実践紹介

● BIWAKO TIME

<p style="text-align: center;">BIWAKO TIME(BT)</p> <p style="text-align: center;">滋賀県をフィールドとした 「学び方を学ぶ」 異学年合同の 調査研究型プロジェクト学習</p> <p style="text-align: center;">琵琶湖(滋賀県)をフィールドに</p>	<p style="text-align: center;">「BIWAKO TIME」とは・・・ 郷土を学習フィールドとした 「学び方」を学ぶ調査研究型の総合学習</p> <p style="font-size: small;">琵琶湖(滋賀県)をフィールドに 仮説に基づいた調査研究を行い、成果発表を行う。 (訪問・アホ取りをし、校外にも出る)</p>	<p style="text-align: center;">『BIWAKO TIME』の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の姿や社会の姿を追究する中で、確かな「学び方」を身につける。 ・郷土の「自然」・「文化」・「社会」の現状を正しく認識し、私たちの現在、未来の生活をよりよく創造していこうとする態度を身につける。 ・学年の枠を越えた学習グループでの活動を通じて、仲間との協力・連帯の姿勢を育てる。
---	--	--

● COMMUNICATION TIME

<p style="text-align: center;">COMMUNICATION TIME (CT)</p> <p style="text-align: center;">学級劇作りを通して、 「相手(仲間) (観客)を意識した コミュニケーション能力」を高める プロジェクト学習！</p> <p style="text-align: center;">「表現を大切にする文化を育てる」</p>	<p style="text-align: center;">「COMMUNICATION TIME」とは・・・ 学級劇を軸とした創造的な総合学習</p> <p style="font-size: small;">相手とのコミュニケーションをとりながら、文化祭での学級劇を創造する</p>	<p style="text-align: center;">『COMMUNICATION TIME』の目標</p> <p>「表現を大切にする文化」を育てる →相手を意識したコミュニケーション能力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「仲間」を意識したコミュニケーション 劇の成功を目指し、問題を解決し、決定するコミュニケーション能力の育成 ②「観客」を意識したコミュニケーション 劇を通して、メッセージを伝える表現力の育成
---	--	--

● 情報の時間

<p style="text-align: center;">「情報の時間」とは・・・ 紙と鉛筆からはじめる 情報の見方や考え方に関する学習</p> <p style="font-size: small;">情報の見方、考え方の基礎を学ぶ「学びのエンジン」</p>	<p style="text-align: center;">情報の時間</p> <p>実践的・体験的な活動を通して 情報を適切に取り扱う基礎的な力 情報を多角的・多面的に見る・考える力を伸ばす！</p> <p style="text-align: center;">「BT」「CT」「各教科」の 基礎を身につける時間 「学びのエンジン」</p>	<p style="text-align: center;">『情報の時間』の目標</p> <p>実践的・体験的な活動を通して、 情報を適切に取り扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、 情報に関する多面的・多角的な見方や考え方を養うとともに、 生涯にわたって生きて働く情報活用能力を育てる。</p>
--	---	--

○ 毎年、「新しいちょっとしたネタやヒントが欲しい」「新鮮な角度から授業を見つめ直したい」という県内現場教員の声に、何らかのお手伝いができるよう、本校の教育実践の中で考えていることを具体的授業として提案し、参会の方々と素直に語り合い、よりよい授業をともに作り合う場として、『教科の明日を語る会』を開催している。さらに本校の研究主題をもとに、授業公開、研究提案、教科提案・分科会を行う『教育研究発表協議会』を行っている。

どちらも、滋賀大学教育学部と連携協力をして、研究推進・授業づくりを行っている。また、滋賀大学教育学部と滋賀県教育委員会は、学校及び地域における教育の充実・発展と人材の育成に寄与することを目的に、連携協定の覚書を締結している。教育研究発表協議会では、県教育委員会学校教育課・保健体育課の指導主事等の先生方に、教育学部の先生方ともに、授業づくり・指導案検討の段階から指導をいただいている。

○ 滋賀県小中学校教育研究会の教科部会の事務局を、ほとんどの教科において担っている。組織の運営だけでなく、研究発信についても積極的に行っている。定期的に、県大会、近畿大会、さらには全国大会の運営にあたっている。

教科の事務局の関係から、公立の小中学校の校内研究等に指導にいくとともに、自主的な研究実践のサークルを立ち上げている教科もある。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

○ 毎年開催している教育研究発表協議会を土曜日に開催することにより、多くの教育関係者に参会していただいている。理論と実践をあわせて具体的に発信していくことには、大きな意義があると考えている。

○ 県内の中学校の校内研究や市町の教育委員会主催の研修会に、講師として多くの者が参加している。また、県教委の各種の事業への委員委嘱を受けている。

国語や美術においては、様々な作品展やコンクールの審査に関わっている。

教科のエキスパートとしての存在は、今後も大切にしていかなければならないと考えている。

○ 県の教科部会の事務局として、教科研究の推進、組織の運営をすすめていくうえで、その存在意義は大きいと自負している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の使命は大きく分けて

- ・大学の教育実習校としての使命
- ・地域のモデル校としての使命
- ・国の研究開発校としての使命

の3つであると考えている。この使命を果たすことが存在意義でもあると考えている。

さらに本校の魅力としては以下の4点だと考えています

①工夫をこらした先進的な授業を受けられる

②BIWAKOTIME・COMMUNICATIONTIME・情報の時間など、多様な学習ができる

③国際理解学習や総合学習などでさまざまな人々との出会いが体験できる。また、多くの教育実習生との出会いもある

④生徒集団、教師集団のアットホームな関わりがある